

蔓延するレストラン症候群に気を付けて！

■なにしに日本へ？

外国人材の事業をやっていると、膨大な数の人たちに「あなたはなぜ日本へ行きたいですか？」と「あなたの将来の夢はなんですか？」を聞くことになります。おもしろいことに、日本へ働きに来る外国人はかなりの割合で「自分の店をもちたい」と答えます。具体的な店の内容をきくと、これまた高確率で「レストラン」と答えます。外食事業を経営されているORAのみなさんは外食事業を成功させることがどれほどむづかしいかをご存じですが、若い人たちはなにも知りません。そのような状況を当社では「レストラン症候群」と呼んでいます。じっさいこのタイプの人たちは現実認識を欠いたまま行動することが多いので、要注意なのです。

■夢から目標へ

とはいえ、レストランオーナーになる夢をぶちこわしにする必要はなく、現実を少しずつ認識し、実現に向けた計画を立て、夢をしっかりとした「目標」に転換することで実現へと近づくことができます。その中で新たなより現実的な夢が生まれることもあります。

■起業への道のり

日本で起業を想定する人たちに対する情報は少ないです。事業主の在留資格である「経営・管理」は最近の法改正によりさらに厳しいものとなりました。さらにはマーケティング、ファイナンス、労務、税務など日本人の起業家にとってもむづかしい課題をこなしていかなければなりません。

■11月17日は「外国人のための起業セミナー」

そこで、せっかく外食の経営者団体ですので、夢見る外国人のためにセミナーを開催することとしました。みなさん会社の務める外国人従業員の中にも少なからず「レストラン症候群」の人がいます。広くお声がけいただき、夢を現実にかえる機会におつなぎください。